

キャンヘルプタイランド

ネットワーク通信

2016年2月25日発行 第72号

事務局便り

NPO 法人キャンヘルプタイランドの法人第1期（2015年10月30日～2016年1月31日）が無事に終わりました。現在、NPO キャンヘルプタイランドの総会に向けて準備を進めております。任意団体からNPO 法人になり、事務量も大幅に増加していますが、少人数で何とか頑張っております。引き続き、理事、運営委員ともに募集しておりますので、興味がある方はぜひお手伝いをお願いいたします。

話は変わりますが、先月、チェンマイ県にある山岳民族の子どもたちのための学生寮「カサロンの家」の運営をしているラフー財団のタッサニーさんの娘さんが来日しました。タッサニーさんの娘さん（トゥン）は、チェンライ県にあるメーファールアン大学の講師をしていて、今回の来日は神戸にある日本の大学からの招待のようでした。一緒に来た同僚と共に、神戸で3日間ほど仕事をし、その合間をぬって週末に名古屋まで遊びに来てくれました。二人から、「白川郷」へ行きたいというリクエストをもらっていたので、「冬の高山と白川郷」を案内してあげることにしました。今年は1月中旬まで暖冬だったので雪もなく、「せっかくタイから来たのに雪のない白川郷では魅力が半減だなあ。」と思っていましたが、ちょうど、トゥンちゃんたちが神戸に到着したころ（1月19日）から急に寒くなり、高山にも雪が積もり始めました。おまけに白川郷のライトアップも始まり、とても良いタイミングとなりました。

23日、早朝6時からレンタカーを借りて、坂家族4名とタイ人2名で高山へ向けて出発。途中、同行したいというキャンのスタッフ2名を拾い、一路東海北陸道を北上しました。道路上には雪もなくとてもスムーズに高山に到着、朝市や古い町並みを観光しました。少し前までは、西洋人観光客が多かった高山ですが、現在はアジアからの観光客ばかりになってしまい、街並みを歩いていると、中国語やタイ語が飛び交っていました。街並みの屋根には20センチほどの積雪もあり、気温はマイナス5度くらいでしたが、風がなかったのでとても観光しやすい天気でした。高山で昼食をとり、午後は白川郷へ移動しました。午後3時くらいに白川郷に到着し、世界遺産の合掌造りを見て回りながらライトアップを待ちました。暗くなり始めると、観光バスの団体客が続々と到着し、白川郷の街の中は歩けないほどの混雑となりました。ここでも、中国語とタイ語が飛び交っています。ライトアップされた合掌造りはとても幻想的できれいでしたが、もう少し人が少ないほうが「ひっそり感」があってもっとよかったのかなあ。

翌日、京都—徳島—神戸というルートで旅をするという二人を名古屋駅まで送りました。この日の名古屋駅の新幹線ホームは風が強く、高山や白川郷よりも体感温度は低かったです。

数日後、二人は『神戸でお世話になった大学教授と一緒に神戸牛のステーキを食べている写真』をFacebookに残し、無事にタイへ帰って行きました。

今回で我が家にホームステイしたことのあるタイの人の数は15人を超えました。ほぼ、キャンで繋がりのできた人ばかりです。こういうコネクションが、これからのキャンの活動のための潤滑剤になると信じて、これからもどんどんホームステイを受け入れていきたいです。

坂 茂樹

報 告

～国際協力・岐阜 DDC での勉強会に参加～

報告：内田 由布子

2016年1月8日（金）19時から地域主体の国際協力・岐阜 DDC（Decentralized Development Cooperation）という団体に講師として呼ばれて、話をしてきました。

この団体は、主催者の方が個人で様々な方を毎月招いて、話を聞き、視野を広めたいということから2001年から始まったそうです。それ以後、毎月欠かさず会を開催しているということでした。個人が主催ではありますが、知り合いや来てくれた講師の方など、会に来た方からメールアドレスをもらって、以後は会を開催する前には次回のお知らせを一斉メールすることで、その月に開催される講演に興味のある人が当日参加する、という仕組みです。

今回は以下の内容で話しました。

テーマ：教育支援の必要性と支援者が支援国の人々から与えられること

概要：国際協力において教育支援がどのような意味を持つのか。そしてその成果を特定非営利活動法人キャンヘルプタイランド（タイ国の貧困地域の子供達への教育支援 <http://canhelp.jp>）の支援の歴史を紐解きながら一緒に考えてみませんか。また、支援している側がタイの子供達や人々から気づかされることはとても多く、国際協力とは人間対人間の双方向的なものであることを話します。

生憎、当日は他の会合に常連の参加者さんが行ってしまい、参加者は3名でしたが、活発な質疑応答のやりとりがありました。

タイや国際支援や教育に強い関心を持った人ばかりの参加でしたので、反対にこちらが最近の東南アジアの情勢を教えてもらうことも多く、非常に勉強になりました。

人前で話をするのが苦手でもあり、キャンヘルプタイランドについてまとめた時間（1時間半）話をするのも初めてのことで、緊張しました。資料も十分に作り込み（別紙参照）、話の練習もしていききましたが、要領が悪かったことと、話の間で質疑応答のやりとりをしたこともあって、用意した資料を全て話すまでに至りませんでした。資料の要点を押さえた話し方をすることや柔軟な話題展開が今後の課題だと思いました。キャンヘルプタイランドの広報の目的で行ったのですが、参加者が少なかったため、その目的は十分に果たせられなかったように思います。今後も広報という視点で招聘されれば、積極的に出かけてキャンヘルプタイランドの活動内容を広めていきたいと思います。

歴 史

～運営委員の内田さんがキャンの歴史をまとめてくれました～

年 度	活 動		
発足当時	タイ東北部の小学生の30%が栄養失調。ほとんどの子どもが裸足。小学校から中学への進学率30%		
1993年	ハリレー教授が名古屋の南山大学にて会報の発行を開始 タイ東北地方で奨学金授与		
1994年	建設プログラム開始。第1回ワークキャンプは90名が参加		
	スリン県	バンパノム学校	教室棟
		ジャルーンラートウイッタヤー学校	教室棟
バンブー学校（2001年も支援）		教室棟	
1995年	スリン県	バンチュアブローグ学校	幼稚園舎
		バンパノム学校	校舎・運動場整備・養殖池とパイプライン
		ジャルーンラートウイッタヤー学校	寮3棟・校舎2棟
		バンジャボック学校	パイプライン敷設・フェンス敷設
1996年	第3回ワークキャンプ 参加者 150名以上		
	プリラム県	バンソンチャン学校	図書館・職業訓練所・養鶏舎
		バンラムドゥアン学校	図書館・寮・養鶏舎

		バンママンガ学校	図書館・養鶏舎・セメント工事
		バンパーチャン学校	図書館・養鶏舎
1997年	ワークキャンプ 参加者150名以上 参加希望者多数で抽選		
	ムクダハーン県	バンドンムアイ学校	多目的教室棟・養鶏舎
		バンサイノイ学校	多目的教室棟・養鶏舎
		バンボンダン学校	多目的教室棟・養鶏舎
		バンナサノウ学校	多目的教室棟・養鶏舎
1998年	ワークキャンプ参加者100名		
	ムクダハーン県	バンノンコン学校	教室棟・養鶏舎・養殖池
		ファイタパ学校	教室棟・養アヒル舎
		バンナヒンコン学校	教室棟・養鶏舎
		バンゲンナン学校	教室棟・養鶏舎
1999年	レイ先生から西川へ会長交代。会則の制定。運営委員会の設置。会員制度		
	チャイヤブーム県	バンバヤング学校	多目的教室棟
		ノンワンブライ学校	図書館・多目的教室棟（アヤカ図書館）
		ルムラムチー学校	多目的教室棟・教室棟補修工事
		シーロングウィッタヤ学校	多目的教室棟
2000年	図書支援プログラム開始。奨学金プログラム（東北地方17県580名）		
	チャイヤブーム県	コークサアートウィッタヤ学校	多目的教室棟
		バンドゥアウィッタヤコム学校	多目的教室棟
		ルーングロムウィッタヤコム学校	多目的教室棟
		ボンノック学校	多目的教室棟
2001年	西川会長がバンコクへ移住。運営委員会の役割が重要になる。		
	チャイヤブーム県	クームアンウィッタヤ学校	多目的教室棟
		バンティックレーン学校	多目的教室棟
		コークサアート学校	寮
		バンドゥアウィッタヤコム学校	校舎整備
	スリン県	サノムスックサカーン学校	図書館改修
		バンノンカーン学校	図書館改修
		バンブー学校（1994年も支援）	多目的教室棟
	サコンナコン県	バンムアンカム学校	校舎整備
2002年	ムティターさんがタイへ帰国。現地スタッフとなる。奨学金（東北地方18県615名）		
	サケーオ県	バンノンサメット学校	多目的教室棟
		バンライサムシー学校	多目的教室棟（千種ロータリー支援）
		バンサイトーン学校	図書館
2003年	ムティターさんがタイで財団設立。奨学金（16県496名） 建設WC参加者30名		
	カラシン県	ノンボンウィタヤヤン学校	図書館
		ノンパーギウウィジット学校	多目的教室棟
2004年	チェンマイ県エイズ孤児の養護施設「希望の家」支援開始 山岳民族支援プログラム 奨学金407名 大学生特別奨学金2名		
	カラシン県	ナブラットソククロ学校	多目的教室棟
		バンコックチャルーン学校	手洗い場整備
2005年	山岳民族学生寮「カサロンの家」建設 奨学金16県282名 可児市絵本コンクール応募		
	チェンマイ県	カサロンの家	家畜小屋
		カサロンの家	山岳部民族学生寮
2006年	タイクーデター 奨学金（16県207名）		
	チェンマイ県	バンファイナムカオ学校	食堂補修
		カサロンの家	山岳部民族学生寮第2棟
2007年	ワークキャンプ参加者15名 奨学金（16県152名）		
	ロイエット県	ノウェンペンガム学校	集会場
	チェンマイ県	カサロンの家	食堂兼調理場建設
2008年	タイ反政府デモ 奨学金（16県181名）		
	サケーオ県	バンクローンタンマチャート学校	幼稚園舎建設（オリックス支援）
	チェンマイ県	カサロンの家	寮・食堂補修工事
2009年	レイ先生がアメリカ帰国。名古屋のタイ料理店で送別会開催 WC参加者7名 奨学金（16県192名）		
	サケーオ県	タイサマキー学校	集会場建設
2010年	タイ治安悪化 奨学金（16県196名） 可児市絵本コンクール奨励賞受賞 すみれ基金設立		
	チェンマイ県	カサロンの家	寮補修改築工事
2011年	タイ都市部大洪水。 奨学金（233名） すみれ基金（5名） 東日本大震災		

2012年	タイ経済好調 奨学金(11県187名) すみれ基金(新規4名)		
2013年	奨学金(172名) すみれ基金(12名)		
	メーホンソン県	バンメーガオ学校	多目的教室棟
2014年	NPO 法人格取得を目指す 奨学金(155名) すみれ基金(16名) 新井副会長ご逝去 終了した可児市絵本コンクールから富山県射水市のコンクールへ応募開始		
2015年	10月30日 特定非営利活動法人格取得 正式にNPO キャンヘルプタイランドとなる		
	サッカーオ県でワークキャンプ開催 「よしふみ文庫」としてサッカーオ県の2校へ図書寄贈		
	サッカーオ県	バンカオティン学校	図書館
	チェンマイ県	バンマイサワン村	集会場 食堂、野菜畑、養魚場
2016年	法人第1期終了 すみれ基金大学生奨学金支援完了		

お知らせ

～特定非営利活動法人キャンヘルプタイランド～

キャンヘルプタイランドは2015年11月より特定非営利活動法人キャンヘルプタイランドとなりました。会の名称は変わりましたが、活動は今まで通りですので、これからも皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

今まで、皆様からのご寄付の入金先だった郵便振替口座の名義が「キャンヘルプタイランド」から「NPO キャンヘルプタイランド」と変更になりますのでご注意ください。

寄付金・会費のお振込みは…

<郵便振替口座>

口座名：NPO キャンヘルプタイランド
番 号：00280 - 2-43793

運営委員会

(2015年12月～2016年2月)

活動	月日	場所	内容
運営委員会	12月	事務局	法人第1期について
運営委員会	1月	事務局	総会準備
運営委員会	2月	事務所	総会準備、建設プログラム完成式について

運営委員募集中!

一緒にキャンヘルプタイランドの運営に参加してみませんか?

通常は毎月第4土曜日に事務所に集まり、会の運営について話し合っています。見学でも結構ですので是非事務所へ遊びに来てください。

次回の運営委員会は **開催日未定のため参加希望の方は事務局までメールでお問い合わせください。**

編集後記

NPO 法人化をきっかけにキャンの歴史について少し調べてみました。レイ先生が名古屋に来る前のキャンヘルプタイランド設立当初の情報は何もありませんが、僕が初めてワークキャンプに参加した1996年頃からは、会報やネットワーク通信で昔の情報が残っており、とても懐かしく読み返すことができました。キャンに係わるようになって20年。長いような短いような?

<キャンヘルプタイランドネットワーク通信 Vol.72>

発行 NPOキャンヘルプタイランド
 発行人 西川 弘達
 編集人 坂 茂樹
 発行日 2016年2月25日
 住所 〒450-0003
 名古屋市中村区名駅南2-11-43
 NPOステーション内
 Tel & fax 052-566-5131
 (OPEN: 土曜の13~16時頃)
 E-mail: office@canhelp.jp
 ホームページ: http://canhelp.jp